

は し が き

昭和51年度から昭和52年度にわたる算数・数学定期研修の成果の一つを「実践研究集録 第15集 算数・数学科編」として刊行いたします。

御承知のように、当教育センターでは、県教育の充実、振興に資する目的で、現職教育のための研修事業を計画し実践しています。算数・数学定期研修も、その一環であり、年次的な計画のもとに実践しています。昭和47年度までは、主として領域の指導内容を中心に、算数・数学教育の現代化をめざす指導のあり方を追求してきました。昭和48年度からは、毎日の授業に強いかわりあいを持ち、内容の指導と合わせて重要性が強調されている「数学的な見方・考え方」の実践的研究をすすめてきました。

このたびの研修では、「数学的な見方・考え方」をする過程で用いられる「数学的な用語・記号」に着目し、主題を「数学的な用語・記号の指導」と決めました。内容としては、数学的な用語・記号に関する児童・生徒の実態調査研究、実態に基づく過去の授業の問題点の解明、指導の改善点を見通すことなどが主なものです。また、実践研究にあたっては、共同研究の形態をとり、51年度には渡辺、町田の前所員が、52年度には今井、岩佐所員が担当して調査研究し、研修員在職校において授業研究を実施してきました。

この「数学的な用語・記号の指導」の研究については、一般には十分に開拓されているわけではなく、児童・生徒の実態すら明らかになっていません。この意味から、この実践研究によつて明らかにされた指導上の問題点は、授業実践への参考資料として役立つと考えています。県下の小中学校において、算数・数学の学習指導の参考資料として御活用くださるとともに、きたんのない御意見をたまわれば幸いです。

小学校6名、中学校4名の研修員の先生方は、それぞれの学校において繁忙な校務を遂行されながら、この研究と実践に力をそそがれ、この論文をまとめられました。その御努力に心から敬意を表します。

終わりに、校務多忙のところ、この研究に多大の御便宜と御協力を賜った校長先生はじめ諸先生方に対し、研修員、所員とともに深く謝意を表します。

昭和52年11月30日

新潟県立教育センター所長 田 辺 啓 三